

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1196200057		
法人名	株式会社 寿エンタープライズ		
事業所名	グループホーム鶴ヶ島		
所在地	埼玉県鶴ヶ島市上広谷652-2		
自己評価作成日	平成 30 年 2 月 10 日	評価結果市町村受理日	平成 30 年 4 月 4 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成30年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム近隣には眼科、整形外科、皮膚科があることにより、恵まれた環境にあり、他に施設内科医が月に2回、歯科医が週に1回訪問しており、医療的なサポートの充実を図っています。また、積極的に外出や外食の企画だけではなく、日常的な散歩や買物等で出来るだけ外出する機会を作っています。
災害対策として、年に2回の防災訓練(消防署立会い)の他、各ユニットごとに夜間を想定した避難訓練や誘導方法の検討を行い、また、施設内で応急処置の勉強会を開催し、日頃から意識付けを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念にある自分らしい生活に近づけるために、おやつ、飲み物等、自分で選ぶ機会を作り、また、利用者一人ひとりのやりたい事を叶えるミニ行事を企画している。希望は「～を食べたい」という食に関することが多いが、「～に行きたい」等の希望もある。歩ける人、歩いての外出が難しい人、会話が難しい人と利用者の状態はそれぞれであるが、できる限り本人の希望に近づけたいと考え、利用者それぞれの希望の把握に努めている。また、希望だけでなく、利用者のできることも把握し、それを継続するために必要なサポートは何かを考えて、継続できる環境を整えている。行事の中でピアノを弾く機会を作ったり、作品作りが得意な人に材料や作業場所を確保することで、利用者がいきいきと過ごしている。また、家族の言葉が遠慮から本当の気持ちとは違うことがあることも理解して支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念や年間目標は各ユニットの見やすい位置に掲示し、ユニットの年間目標は年度初めに話し合いを決めている。日常支援の実践に繋げている。	事業所理念は、法人の理念をもとに作ったものであり、開所以来継続している。管理者は、理念を実現するためにはどうすれば良いかを考えて支援をすること、理念とケアはつながっていることを職員に説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の催事、地域との交流や、社会福祉協議会の作品展への参加により積極的に地域との関係作りにも努めている。	自治会のゴミ拾いに地域の方と一緒に参加している。市内グループホームとはのど自慢大会、運動会等を合同で実施しており、もともと知り合いだった知人と再会する場ともなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内のGHや小規模多機能など5事業所で、定期的に会合を開き、情報交換などを行う機会を作っている。又、看護学生の実習生・ボランティア体験受け入れなどで地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの取り組みや状況などについて報告としている。色々な意見を頂き集約した内容を職員へ回覧。サービスの向上に努めている。	会議は、市の高齢福祉課、民生委員の参加で開催している。災害対策の1つとして、自動火災報知機が119番通報と連動することを報告した時には、通報ボタンは重複してももう一度押した方が良いとアドバイスをもらった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の施設状況の報告や必要提出書類、問題発生時などで市役所まで赴き相談や情報交換を行っている。	3か月に1度グループホーム部会があり、市の職員も参加して連携を図っている。この会議は、市内の管理者がそれぞれ相談したいことを持ち寄り、アドバイスをもらったり、管理者同士が情報共有することもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急時やむを得ない事態が発生した場合でも様々な方法を試し、職員間で話し合っって身体拘束を行わないケアに日々取り組んでいる。	身体拘束をしないのでできる方法について考えている。行動を止める言葉の拘束に対しては、別の言い回しや危険がない状態が見守る方法もあることを説明している。接遇委員会が使わないように気を付ける言葉を掲示して全職員に周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の申し送りや職員間の会話によるコミュニケーションにより、入居者の情報交換を行い、利用者の状況把握に努めている。また、入浴時入居者の身体的変化を常に確認し、対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市役所や社会福祉協議会の方とお会いした際、情報交換を行っている。また、研修等に積極的に参加できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・訂正などの際は、書面を用いて十分な説明を行っている。また、契約前には本人・その家族に見学をして頂き、ホームの雰囲気を感じて頂くよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、ホームの取り組みや状況などについて報告としている。色々な意見を頂き集約した内容を職員へ回覧。サービスの向上に努めている。また、年4回の家族会にて施設側は退席し、家族間で意見交換のし易い環境を作っている。	家族会では、意見を出しやすいよう、家族のみで話をする時間を作っている。家族からは、日常の様子についての質問があり、キーパーソンにしか送付していなかったおたよりを玄関に掲示し、多くの人に見てもらえるようにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営面の必要事項、変更点は会議や書類で職員に周知、個別面談を定期的に行い意見や要望など出しやすいような雰囲気作りにも努めている。	会議で本社からの連絡や運営面での報告をしている。行事のあり方について職員にアンケートを実施し、「個別の行事も楽しいが全体でおこなう行事もやってみては」との提案をとり入れることにした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社が認めた研修については出勤扱いの上、費用は会社負担で受講可能としています。年間休日120日やシフトの融通性をもって就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	シフト上、無理のない範囲で外部研修への参加機会を作っている。参加者は学んだことを会議等の場で発表してもらい、他職員の知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のGHや小規模多機能など5事業所で、3か月に一度持ち回りで会合を開き情報交換に役立っている。又、管理者以外の職員も他の施設の見学を行うなどの機会も作るよう努めている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期の利用者には、ご家族、利用者様が話しやすいような環境を整え、利用者様の安心の確保に努め、利用者様の訴えには積極的に傾聴し、対応し安心して頂けるよう努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームへの見学に来て頂くように依頼し、直接会ってホームについて説明すると同時に、ご家族の気持ちを十分に伺いながら、信頼関係の構築に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まだ在宅生活が可能であったり、グループホームへの入居が適していないと判断した場合は、他のサービスについても説明し、地域包括支援センターや担当ケアマネージャーへ相談することを勧めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動や軽作業に参加して頂く機会を作っている。利用者と会話をしながら、家族のような雰囲気の中で生活していけるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に受診や面会の対応を依頼し、共に支えるチームの一員としてケアに参加してもらっている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	掛かり付けの病院に継続して受診したり、自治会のお祭りに参加したり、スーパーやコンビニへ買物を行ったり、近隣の公園に花見に出掛ける等、馴染みの関係が継続するように努めている。	友人の来訪は家族に事前に確認している。最近、家族の行事参加が増えており、敬老会の時には家族に協力してもらい、利用者へのメッセージを書いてもらった。利用者には嬉しそうな表情がみられた。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性も見極めて、うまく関わって過ごせるような配慮をしている。 トラブルはできるだけ未然に防ぐ努力もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	スムーズに次のサービスへ移行できるよう、ご家族からの相談に応じ、情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重できるように希望を聞くよう心掛けていく(日頃の関わりでもケアプランでも)。	自分らしい生活ができるよう、おやつを選ぶ、飲み物を選ぶ等、自己決定する場面を作っている。言葉での表現が難しい人には、過去の好みなどからできる限り本人の希望に近づけたいと考える事を大事にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族との話し合いの中から得た情報収集により、職員同士の共有、サービス提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身の状態や生活の様子をまとめたシート定期的に見直し現状の把握に努め日々の気付きは個別記録に記入し、職員間で情報の共有、意見交換を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングシート記入後、ご家族に説明又は郵送にて意見、要望などを頂いている。利用者様にも理解度に要望を頂きそれぞれの意見を反映させて現状に合った介護計画の作成に努めている。	本人家族にどのように生活したいかを聞き、利用者本人の発した言葉は、できるだけそのまま記録することになっている。ケアプラン作成にあたっては、いろいろな視点が入るようカンファレンスで話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員が日々の状況把握に努め話し合い、計画に反映させるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームでの対応だけでは難しい場合などはご家族の協力を得たり、ボランティアの活用もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や市内の催事に参加、ボランティアの訪問、民生員の協力のもとで、安全で心豊かな生活が出来るよう支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を受けても、以前までの掛かり付け医を受けてもよいように選択してもらえるが、その場合Faの受診協力を仰いでいる。	訪問診療と入居前のかかりつけ医受診についてそれぞれメリット、デメリットを説明し、家族に選んでもらっている。訪問診療の回数は、利用者の状態、家族の希望により月1回か2回かを選ぶことができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制の往診医にて相談、指導を受けながら利用者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院や退院時には看護・介護のサマリーの提供などで情報交換を行っている。出来る限りの面会に行き病院相談員との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の希望に沿って提携医と十分な話し合いをして頂き、ご家族の協力無しでは無理難題がある為、訪問看護師、職員とのケアの統一を図れるよう支援に取り組んでいる。	契約時に、事業所としてどのような対応が可能であるかを家族に説明し、意向を確認している。管理者は、家族の返答を最後まで変わらないものとは思わず、状態に応じていろいろ変わる家族の不安な気持ちをそのつど受けとめるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	自治体の防災訓練にも参加したり普段から実践できるよう勉強会を兼ね工夫をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署、サイボー防災管理会社社立会いの下、消火や、通報、避難訓練の実施を行っている。災害対策マニュアルを作成し、避難誘導、風、大雨の対策にも取り組んでいる。	自動火災報知機が119番通報を連動する設備を整えている。避難訓練は年2回、昼、夜想定で実施している。避難訓練には、消防署員の立ち会いがあり、避難誘導の方法についての助言をもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常のケアの中で言葉使いや対応には十分注意をし威圧的にならないよう接遇委員会を設け職員間で共有し、一人ひとりの人格を尊重した言葉かけでの対応に努めている。	誰もが排泄はトイレで1人でしたいと思っていると考え、他の利用者から「あの人はトイレ介助してもらっている」と思われないよう配慮している。人の輪に入ることができない人にもそっと気遣いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を確認する意味でも自己決定してもらえるような働き掛けを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や順番など他者や他の業務との兼ね合いで、職員の都合になりがちな事もあるが、なるべく入居者の希望や意思を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があればカラーリングしている方もいる。好きな服を選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の手伝いをしてもらったり、一緒におやつ作りをすることもある。 下膳は進んで自ら行う方が多く、他の方の分も片付けてくださる。	季節に合わせたメニューを多くとり入れている。利用者の食生活の継続支援として、毎朝梅干しを提供したり、パンが好きな方にパンを選べる日を設けている。個別行事として食べたいものを食べに出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材の宅配業者の栄養計算されたメニューに基づき調理している。食事摂取量のチェック、水分はお好みの物を提供するなど工夫するよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔内ケアや義歯の手入れにより、口腔内の清潔に努めている。週1回の訪問歯科による口腔マッサージ、ケア、治療を定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間のみトイレを活用している方も数人いる。安易にオムツにしない考えで支援に当たっている。	トイレで1人で排泄することが難しい理由を職員は共有している。安易にオムツの使用は考えず、下肢筋力維持の運動をしたり、使い方がわからない人にはその都度説明してできることは継続できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の促し・腹部マッサージ・適度な運動なども取り入れている。 下剤については、Dr.と相談し使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	他者との兼ね合いで自由に時間を選んで…とはいかないが、2日おきに入浴を行っている。 長湯好きの方々はゆっくり入ってもらえるよう心掛けている。	ぬるめ、熱めといった湯温は利用者の好みに合わせ、長く入浴したい方には比較的ゆっくりできる午後に勧めている。お風呂上りの飲み物を楽しみにしている利用者が多い。拒否の場合には、タイミングをみて声をかけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明の明るさや音の有無など、その方の好む環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示や説明、薬剤説明書はファイルに綴じ確認できるようにしている。薬剤変更時は職員全員で把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の経験や能力に応じた役割を分担し裁縫、洗濯たたみ、干すなど出来る事への支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気にも左右されるが散歩やお買い物、ご家族の協力もあり外出や外食の機会をつくりご家族と過ごす時間を楽しまれている。	職員と一緒にゴミ出しに出たり、家庭菜園をみたり、買い物に行ったりしている。近所にコーヒーを飲みに出かけるのを楽しみにしている人もいる。家族と一緒に墓参りや泊りでのお出を楽しむ人もいる。ミニ行事として個々の希望に応える外出支援もおこなっている。	個別の外出支援も行い、自分らしい生活ができるよう利用者の意向把握に力を入れている。時間をかけた外出も楽しいが、少しの時間戸外にすることで気分転換できることもある。日々の外出支援の種類を検討し生活が更に充実することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を自己管理している方も数人いる。 お小遣いから買物される時もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や行事案内時に手紙のやりとりが出来るように配慮、利用者の希望に応じて、ご家族に電話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には日常の写真を掲示、花や装飾品を飾るなど。各居室には温度計を設置し、温度湿度にも配慮している。	テレビは利用者と職員が一緒に観ることで、共通の話題をひろい、コミュニケーションツールの1つとして利用している。居間の温室度は職員が管理し、冬場は乾燥対策をしている。台所は対面式であり、利用者は調理の様子を肌で感じる事ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席や居室など落ち着く場所で自由に過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたタンスや仏壇、家族の写真などが持ち込まれ居心地良く過ごして頂けるよう工夫をしている。	タンスや写真、仏壇等大事にしてきたものを持ち込みしている。動線を考え、移動する時にどこにシルバーカーを置いたら安全かつ便利かを検討して置き場所を決めた。置き場所がわかるよう床にテープで印をつけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札を付け他者の部屋との区別を図ったり、階段の扉には注意を呼び掛ける札を付けている。(現在は外している)		